

授業カブラッシュアップ[®]研修会Ⅲ・Ⅳ



学習指導要領の趣旨や、学習定着度状況調査等の結果を踏まえ、授業における言語活動の充実に視点を置いた学習活動や学習評価の在り方等を改善するための提案授業・講義・演習を実施しました。

今回は、4つの研修会のうち中学校英語科と中学校数学科の研修会の様子を紹介します。

中学校 英語科

学習到達目標（CAN-DO リスト）と関連させた単元指導計画によるコミュニケーション能力の育成
～小中連携の視点を活かした言語活動を通して～

(1)提案授業

「Program7 If You Wish to See a Change」第2学年
授業者：一関市立大原中学校 教諭 及川 静香
助言者：県南教育事務所 指導主事 和賀 真樹

★年間指導計画作成の工夫について

・年間指導計画の中に CAN-DO リストを位置付け、各単元の目標を明確にしました。その際、4技能について年間を通して総合的に指導できるよう配慮し、単元の目標を達成するための具体的な評価場面・評価方法も位置付けました。

★言語活動の工夫について

・常に準備したことをもとに話す活動を行うのではなく、即興で英語を話させるための手立てを組むことが、その後の活動における意欲向上に結び付いていました。

・話したことを手掛かりとして書く活動につなげることで、その際にマッピングや語順シートを活用するなど、スモールステップを組んだ授業展開を考えました。

・生徒に心から伝え合いたいと思わせるために、誰に対して、何のために表現するのかなど、言語活動の必然性を吟味して活動を設定することや、小学校外国語活動での学びを活かした授業を行うことで、コミュニケーション活動が豊かなものになりました。



(2)講義 『本年度の英語科指導の重点』

講師：岩手県教育委員会 主任指導主事 遠山 秀樹
全国学調の意識調査とのクロス分析から、例えば、「授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか」は、学力との相関が強く、日常の授業を振り返ってみる視点になります。授業改善のポイントとして、意識調査（「生徒の声」として受け止める）を含めた調査結果を有効活用することは、各校の課題解決に向けた手立ての立案や Student Centered の授業づくりを構想する際の具体的なヒントになります。

中学校 数学科

効果的な振り返りとグループ活動を取り入れた授業のあり方

(1)提案授業

「三平方の定理」第3学年
授業者：一関市立東山中学校 教諭 志賀 誠
助言者：県南教育事務所 指導主事 田村 大樹

★振り返りについて

・生徒による振り返りを、評価問題による「表面」の振り返りと、記述による「内面」の振り返りに分けました。表面の振り返りでは、本時の学習のねらいを達成できたか見取り、内面の振り返りでは、記述の視点を与え書かせることで、教師と生徒の理解のずれを見取りました。記述による振り返りは、教師の授業の反省にもつなげていくことができます。

・生徒にどんな振り返りをさせるか（既習事項の振り返りも含めて）をイメージすることは、課題・まとめ・評価・振り返りの観点をそろえた授業の展開を考えることにつながりました。

★グループ活動について

・ペア・グループ活動において、「構成メンバー」・「人数」・「隊形」など工夫する視点は様々ありますが、活動するねらいをはっきりもつこと、その意図が生徒に伝わっていることが大切です。



(2)講義 『振り返り』

講師：県南教育事務所 指導主事 田村 大樹
数学における「振り返り」には、教師の振り返りと生徒の振り返りがあり、さらに生徒の振り返りには、「評価問題による振り返り」と「視点を与えた記述による学習の振り返り」があります。

教師の振り返りにおいては、本時の指導目標を一人ひとりが達成できたかを見取るために、適切な評価問題を位置付け、教師が意図する理解ができているかを記述から見取ることが大切になります。

また、評価問題や定期テストに、分析を生かして全国学調や県学調の問題を積極的に活用したいところです。